

茂吉の豊かな感性で蔵王をみる

蔵王文学のみち 珠玉の歌碑

QRコードから詳しい説明を観ることができます。  
(音声ガイドあり)

麓の歌碑

1

蔵王山のかげより白雲のわきのぼる

さまあざやかにけふはれわたる

出典 全集拾遺(昭和二〇年) 場所 蔵王の朱い大鳥居



山の歌碑

2

陸奥をふたわけさまに聳えたまふ

蔵王の山の雲の中に立つ

出典 白桃(昭和九年) 場所 熊野岳山頂



山の歌碑

3

雪消えしのちに蔵王の太陽が

はぐくみたりし駒草のはな

出典 寒雲(昭和四年) 場所 蔵王ロープウェイ 地藏山頂駅



山の歌碑

4

みちのくの蔵王山なみにゐる雲の

ひねもす動き春たつらしも

出典 霜(昭和七年) 場所 観松平



山の歌碑

5

ひむがしの蔵王を越ゆる疾きかぜは

昨日も今日も断ゆることなし

出典 ともしび(昭和三年) 場所 蔵王中央高原・片貝沿畔



山の歌碑

6

蔵王よりひくき雁戸のある色を

しばし恋しむ雪のはだらも

出典 霜(昭和六年) 場所 鳥兜山頂広場



山の歌碑

7

山の峰かたみに低くなりゆきて

笹谷峠は其処にあるはや

出典 霜(昭和六年) 場所 蔵王中央高原・蔵王大権現



湯の歌碑

8

朝ぐものあかあかとしてたなびける

蔵王の山は見とも飽かめや

出典 石泉(昭和六年) 場所 蔵王温泉バスターミナル



湯の歌碑

9

やま峡に日はとつぷりと暮れゆきて

今は湯の香の深くただよふ

出典 赤光(大正二年) 場所 下湯共同浴場



湯の歌碑

10

ひむがしの蔵王の山は見つれども

きのふもけふも雲さだめなき

出典 石泉(昭和六年) 場所 おおみや旅館



湯の歌碑

11

しづかなる春山峡のかなしきよ

杉原ゆけば杉の香ぞする

出典 霜(昭和六年) 場所 醉川温泉神社



湯の歌碑

12

とどろける火はをさまりてみちのくの

蔵王の山はさやに聳ゆる

出典 つきかげ(昭和五年) 場所 上の台

蔵王が昭和十五年に「日本観光地百選山岳の部」で第位になつたとき、東京に住んでいた茂吉が、わがこのように喜び、「蔵王山」と題して新聞に発表した二首。



湯の歌碑

13

ひさかたの雪はれしかば入日さし

蔵王の山は赤々と見ゆ

出典 白桃(昭和九年) 場所 蔵王スカイケーブル上の台駅



湯の歌碑

14

蔵王をのぼりてゆけばみんなみの

吾妻の山に雲のゐる見ゆ

出典 赤光(明治四四年) 場所 蔵王みはらし公園



湯の歌碑

15

蔵王より南のかたの谿谷に

初夏のあさけの靄たなびきぬ

出典 小園(昭和二〇年) 場所 緑屋三号源泉定湯



湯の歌碑

16

たましひを育みますと聳えたつ

蔵王のやまの朝雪げむり

出典 小園(昭和九年) 場所 和歌の宿わかまつや



湯の歌碑

17

蔵王よりゆるくなだるる高はらは

なべて真白し雪ふりつみて

出典 霜(昭和七年) 場所 樹氷通り・蔵王中央ロープウェイ前



湯の歌碑

18

ここにいて蔵王の山はあら山と

常立ちわたる雲見つつをり

出典 霜(昭和六年) 場所 蔵王ロープウェイ 蔵王山麓駅



湯の歌碑

19

ひさかたの天はれしかば蔵王のみ

雲はごりてゆゆしくおもほゆ

出典 霜(昭和六年) 場所 蔵王四季のホテル 離れ湯百八歩



湯の歌碑

20

ひむがしに直に向ふ岡にのぼり

蔵王の山を目守りてくださる

出典 小園(昭和二〇年) 場所 嶋の谷地沿畔



松尾山の歌碑

周辺

あしひきの山の池なる白き鯉

われの心はけふは和ぎなむ

出典 全集拾遺(昭和二〇年) 場所 松尾山観音堂

